

しもしなの
下品野遺跡 (本発掘調査B)

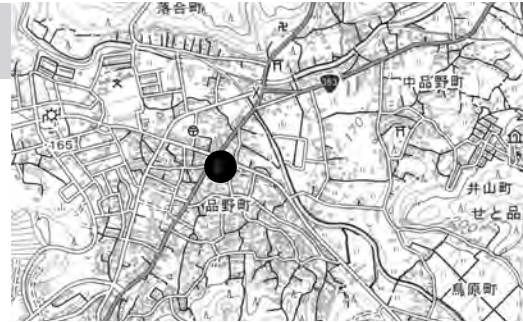
所在地 瀬戸市品野町五丁目地内
(北緯35度14分55秒 東経137度07分29秒)

調査理由 主要地方道瀬戸環状線交差点改良工事 (交付金)

調査期間 令和4年5月～令和4年7月

調査面積 300㎡

担当者 樋上 昇・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「猿投山」)

調査の経過 本遺跡の調査は、主要地方道瀬戸環状線交差点改良工事 (交付金) にともなう事前調査として、愛知県建設局道路維持課 (尾張建設事務所) より愛知県県民文化局を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、令和4年5月～同4年7月に調査を実施した。調査区は国道248号と県道22号瀬戸環状線が交差する品野町6丁目交差点の南東側にある。調査面積は300㎡で、北側から順に22A区～22C区に分けて調査した。

立地と環境 下品野遺跡は瀬戸市北東部にある品野盆地の南東緩斜面にあり、北東から流れる水野川と南東から流れる鳥原川が合流する地点の南にある。遺跡周辺は古代末から現代にかけての陶器・磁器を生産する窯が数多く営まれた地域で、名古屋方面の南西から長野方面の北西にのびる中馬街道が巡っている。

調査の概要 今回の調査では、飛鳥時代～奈良時代と戦国時代、江戸時代後期～近代の主に3時期の遺構と出土遺物が確認できた。

(1) 飛鳥時代～奈良時代

竪穴建物1棟と土坑1基を確認することができた。竪穴建物007SIは22A区の南端部にて検出でき、昨年度に確認された21G区133SKの北につながる。竪穴建物は平面方形のもので、一辺4m程になる。西側の壁にカマドの一部と思われる粘土塊が確認された。土坑045SKは22B区にて確認できた幅0.53m、長さ1m以上を測る平面楕円形のもので、深さは0.30mであった。出土遺物には須恵器杯、壺、甕、土師器甕などがある。

(2) 戦国時代

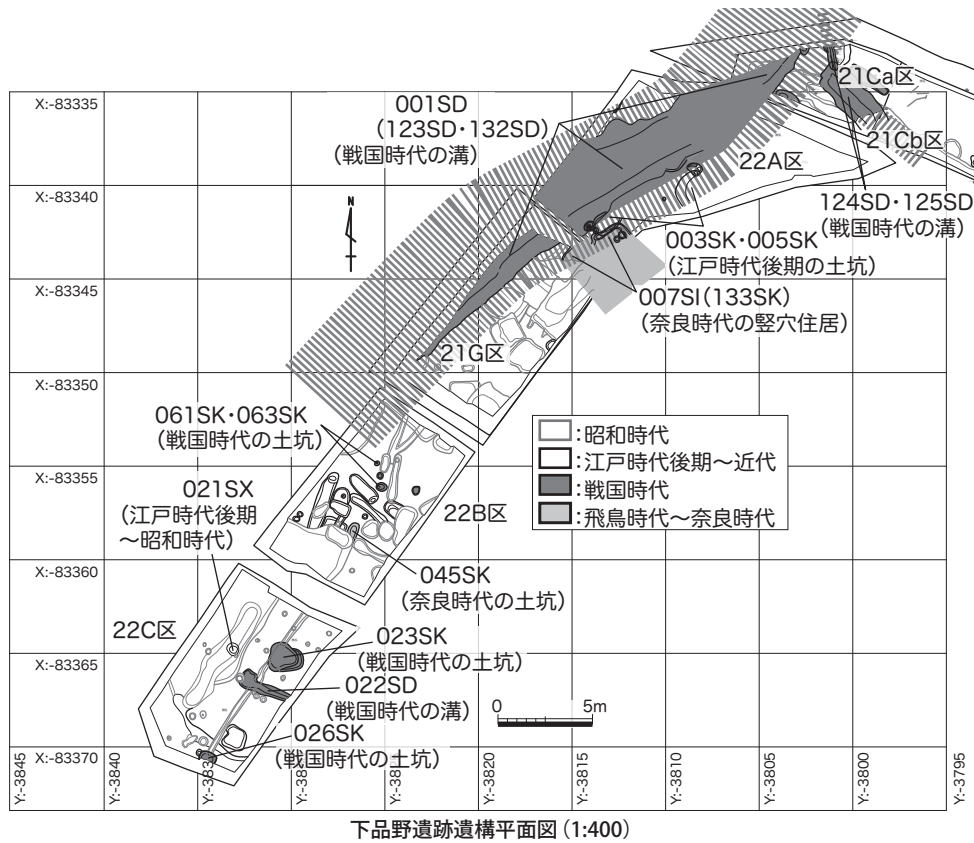
溝2条と土坑4基を確認することができた。溝001SDは22A区の西側を北東から南西に流れる溝で、昨年度確認された21Ca区123SDと21G区132SDとつながる。001SDは幅6mを超える断面逆台形の溝で、深さは遺構面から1.22mを測る。001SDは南にある22B区の西を流れる。22C区中央部にて確認された022SDは幅0.70m、深さ0.12mの浅い溝で、西側は途切れていた。22C区の南端で検出された土坑026SKは、平面が隅丸方形状で東西0.90mを測る。瀬戸美濃産陶器の灰釉緑釉小皿と土師器皿が重なった状態で出土した。出土遺物には瀬戸美濃産陶器の天目茶碗、皿、播鉢、壺、筒形製品、土師器皿などがある。

(3) 江戸時代後期～近代

土坑5基を確認できた。22A区で確認された003SK～006SKは江戸時代後期～近代の一連の土坑で、003SKは長さ2m、幅1m以上の大型土坑である。003SKからは土坑の南西側から廃棄され状態で、瀬戸美濃産陶磁器の碗、皿、徳利、播鉢などが多数出土した。

まとめ 今回の調査により、下品野遺跡における古代の集落が品野町六丁目交差点の西側に展開することが明らかとなった。また、戦国時代の集落も、溝001SDの南西側に広がるものと思われる。

(蔭山誠一)



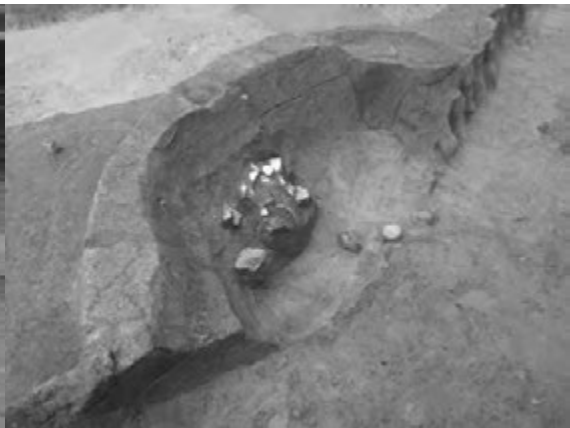
22A区全景 (南上空より)



22A区001SD (北東より)



22A区007SI (北より)



22C区026SK (北より)